

姉妹都市・ランカスター市(米国)の 中学生が佐野市を訪れました



5月14日～20日までの7日間、姉妹都市であるアメリカ合衆国ペンシルバニア州ランカスター市の訪問団18人(中学生15人・引率3人)が佐野市を訪れました。

生徒たちは市内の家庭にホームステイしながら、市内の各中学校に訪問し、日本での生活を体験。また、茶道や生け花といった日本文化にも触れ、異文化での7日間を楽しみました。

訪問団は、佐野市へ感謝の言葉を残し、楽しい思い出とともに帰国しました。



Town Topics まちの話題

渡良瀬川クリーン 運動が実施されました



5月12日、高橋大橋および船津川運動場近辺の渡良瀬川河川敷において、渡良瀬川クリーン運動が行われました。

地域住民の方をはじめ多くの方が集まり、クリーン運動が開始され、河川敷に捨てられた空き缶・空き瓶、菓子袋など、さまざまなゴミが参加者の手で拾い集められました。

多くの生命の命をなくみ、みんなの憩いの場である河川を大切にしましょう。

ご協力ありがとうございました。



第5回佐野ブランドフェア



5月17日・18日の両日、市内のショッピングモールで、第5回佐野ブランドフェアが開催され、多くのお客さんと賑わいました。

17日には「さのまる音頭」の振り付け発表の審査会が行われ、5組が出場。2組が実際にステージで披露し、残り3組は踊りを収録したDVDで踊りを披露しました。「さのまる音頭」の振り付けは、今後、審査会を経て、決定する予定です。どうぞ、ご期待ください。



考案したさのまる音頭を披露

18日にはブランド姫・増田麻美さんや、ブランド大使・ダイヤモンド☆ユカイさんが登場し、佐野ブランドをPRしていただきました。

こどもフェスティバル in SANO 2013



5月3日から5日の3日間、こどもの国で「こどもフェスティバル」が開催されました。

3日にはテレビで大人気の「獣電戦隊キョウリュウジャー」ショー、4日には小山高専の皆さんによる「ロボコンショー」が行われたほか、5日には手作りゲームが体験できる「わんぱくレクリエーション広場」が設けられるなど、今年も盛りだくさんの内容で開催され、大勢の親子が会場を訪れ、イベントを楽しみました。



注
目

健康
福祉

募
集

催
し
物

お
知
ら
せ

講
座

話
題

「まちなかチャレンジショップ」

まちなか活性化ビル「佐野未来館」3階にある『佐野市まちなかチャレンジショップ』をご存じですか？このショップは佐野市が新規事業者の支援をすることで、中心市街地の活性化を図ることを目的としています。



その「佐野未来館」3階がゴールデンウィーク明けに新しく生まれ変わりました。チャレンジショップAには『mammy's cafe』が新しく加わり、旬の野菜を使ったメニューで野菜の魅力と、食の大切さを味わうことができます。

Bには『さのまるショップ』がリニューアルオープンし、さのまるグッズと佐野ブランド認証品を販売しています。また、Cには『サロンみちくさ』がハンドメイド雑貨や衣類などを展示し販売しています。

3つのお店には、まちなかの誘客作戦の一つとして、そして活性化のために一役買っていただきたいです。



(市民記者 中里聖子)

小堀ご門主をお訪ねして30回！

佐野市出身の小堀光詮探題大僧正が、三千院門跡第61代門主に選任されたのを機に、佐野市観光協会主催で平成元年から大原三千院をバ



法話をされる小堀ご門主

スで訪ね、今回で30回目となりました。

5月13日に佐野を出発したバスは一路三千院へ。小堀ご門主から「一隅を照らす」「端の人のためにすることを働くという」「円仁、比叡山、佐野とのご縁」などユーモアを交えた貴重なご法話を頂き、参加者全員が熱心に耳を傾けていました。またご門主のご息がお勤めされる比叡山延暦寺で、慈覚大師1150年法要に参加させて頂きました。



新緑の中で葵まつり

京都三大祭の葵まつりでは、私たちのために大変良いお席をご用意頂くなど、三千院を始め比叡山、京都

市観光協会の皆様が佐野市民を格別なお計らいとおもてなしの心で迎えてくださっていることを実感した3日間でした。

(市民記者 永倉文字)



「煙い」の方言には いろいろある

煙を吸い込むと息苦しく感じたり、目が痛かったりします。このような状態を共通語では「煙い」「煙たい」などといいます。これらの語が訛って、ケミーとかケムッターなどという方言が生まれました。「近くでタバコを吸われると、ケムッターッタラアリヤーシネー（煙たいことこの上ない）よ」

また共通語には「煙い」「煙たい」もあります。「煙い」の「む」が「ぶ」になっています。これらの語が訛ってケビーとかケブッターという方言も生まれました。「セフロ（風呂）の焚き口はケブッターし、アッチー（熱い）から、マキダッポー（薪）をツックベルツァッテ（くべる場合でも）容易なコツチャーネー（ことではない）よ」

ケビーとかケブッターは古語が変化したもので、古くから使われていましたが、今では減少傾向にあります、使用年齢層の多くは高齢者になっています。

以上のほかに、イビー・イブッターがあり、生木が燻ついているときの煙が、気管にはいつて息苦しいときなどに使います。したがって、タバコの煙などに、イビーとかイブッターを使うのは適切ではないということとなります。

「よく燃えネー生ツ木からでるケブ（煙）は息苦しくて、しかもツーンと鼻にきてイブッテンだよね」

(市民記者 森下喜一)